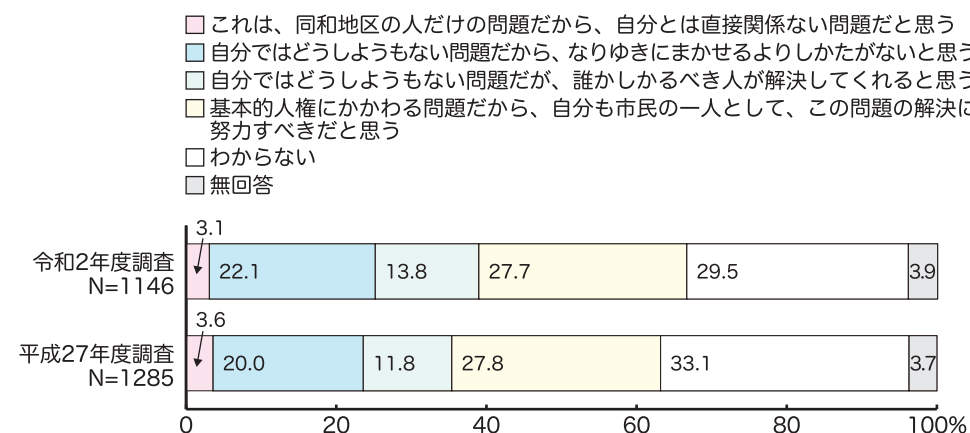


Q 同和問題(部落差別)の解決に対するあなたの考えに最も近いのはどれですか。

「わからない」の割合が29.5%と最も高く、次いで「基本的人権にかかわる問題だから、自分も市民の一人として、この問題の解決に努力すべきだと思う」の割合が27.7%、「自分ではどうしようもない問題だから、なりゆきにまかせるよりしかたがないと思う」の割合が22.1%となっています。



あま市 企画財政部 人権推進課 令和3年3月

〒490-1292 愛知県あま市木田戌亥 18 番地 1
TEL 052-444-0398 FAX 052-441-8330
あま市公式ウェブサイト <https://www.city.ama.aichi.jp/>

あま市人権に関する 市民意識調査結果

概要版

① 調査目的

本市では、「あま市人権尊重のまちづくり行動計画」や「あま市男女共同参画プラン」に基づき、人権尊重のまちづくりや男女共同参画社会の実現に取り組んでいます。この計画が令和3年度で終了し、新たに第2次の計画及びプランを策定するにあたって、これまでの施策の効果に対する検証など、今後より一層充実した取組を行っていく上での参考とさせていただくための調査です。

② 調査対象

あま市に居住する20歳以上の市民3,000人(無作為抽出による)

③ 調査期間

令和2年8月17日(月)～令和2年8月28日(金)

④ 調査方法

アンケート郵送形式、無記名

⑤ 有効回答数(回答率)

1,146通(38.2%)

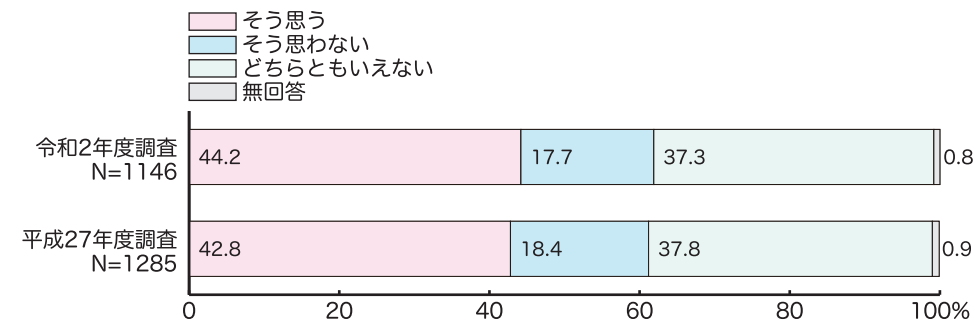
⑥ 調査結果の表示方法

回答は各質問の回答者数(N)を基数とした百分率(%)で示してあります。また、小数点以下第2位を四捨五入しているため、内訳の合計が100.0%にならない場合があります。

人権意識について

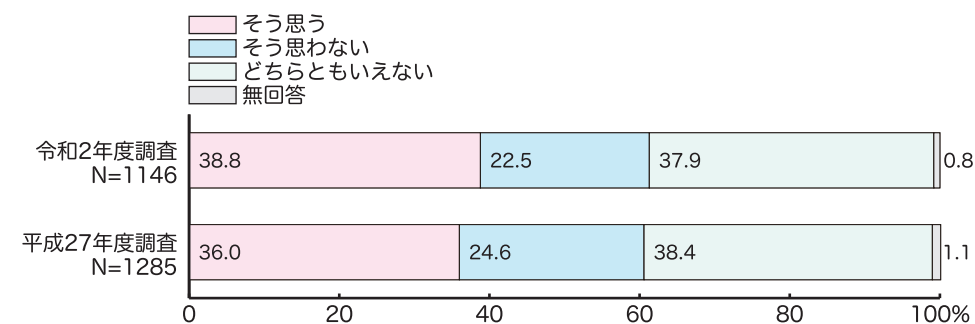
Q 今の日本は、基本的人権が尊重されている社会だと思いますか。

「そう思う」の割合が44.2%、「そう思わない」の割合が17.7%となっています。



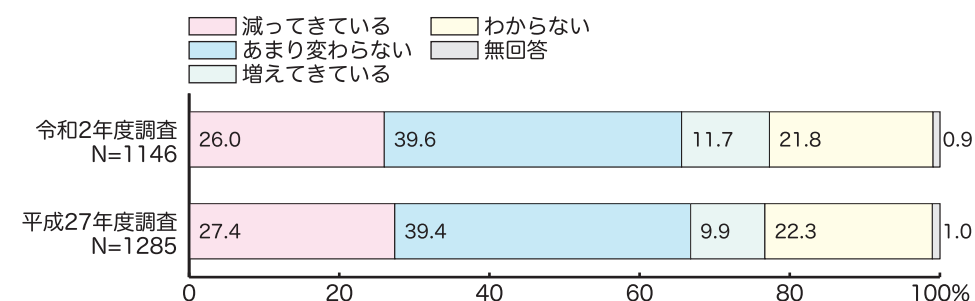
Q 国民(市民)一人ひとりの人権意識は、10年前に比べて高くなっていると思いますか。

「そう思う」の割合が38.8%、「そう思わない」の割合が22.5%となっています。



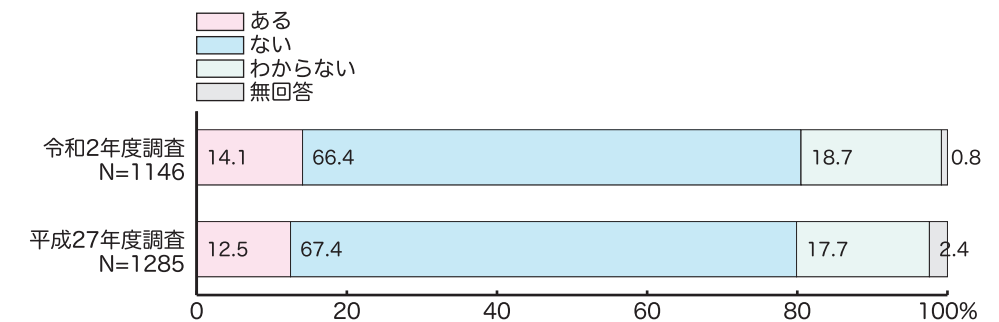
Q 日本社会における人権侵害や差別は、10年前に比べて減ってきていると思いますか。

「あまり変わらない」の割合が39.6%と最も高く、次いで「減ってきている」の割合が26.0%となっています。



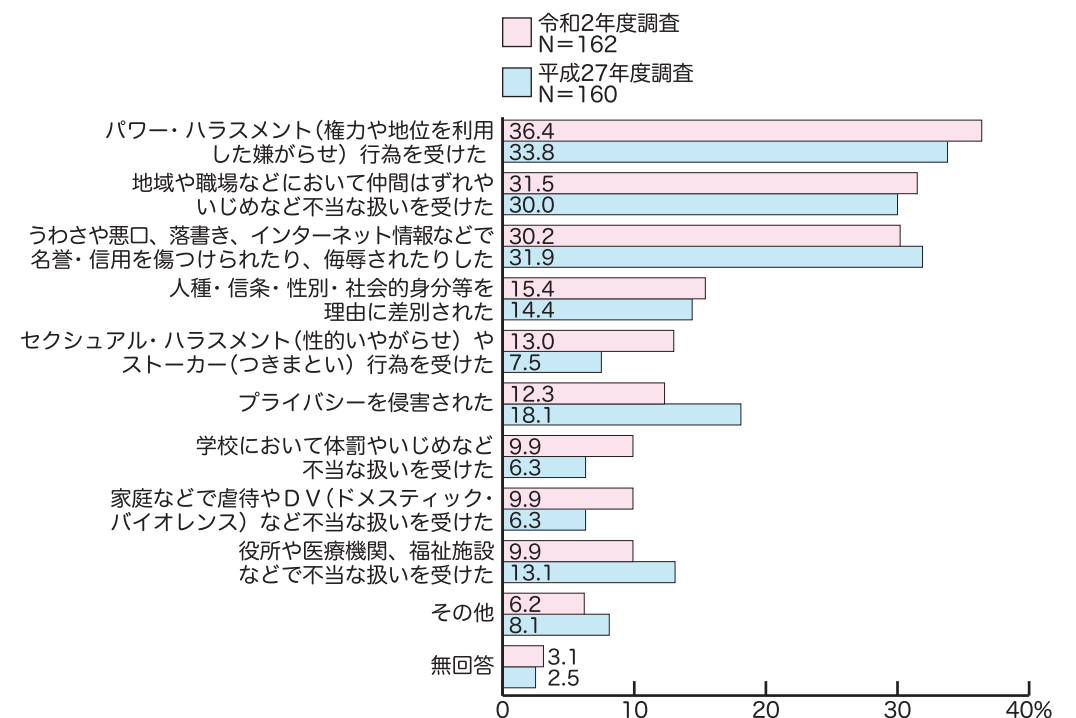
Q あなたは、この10年程の間に、自分の人権が侵害されたと思ったことがありますか。

「ない」の割合が66.4%と最も高く、次いで「わからない」の割合が18.7%、「ある」の割合が14.1%となっています。



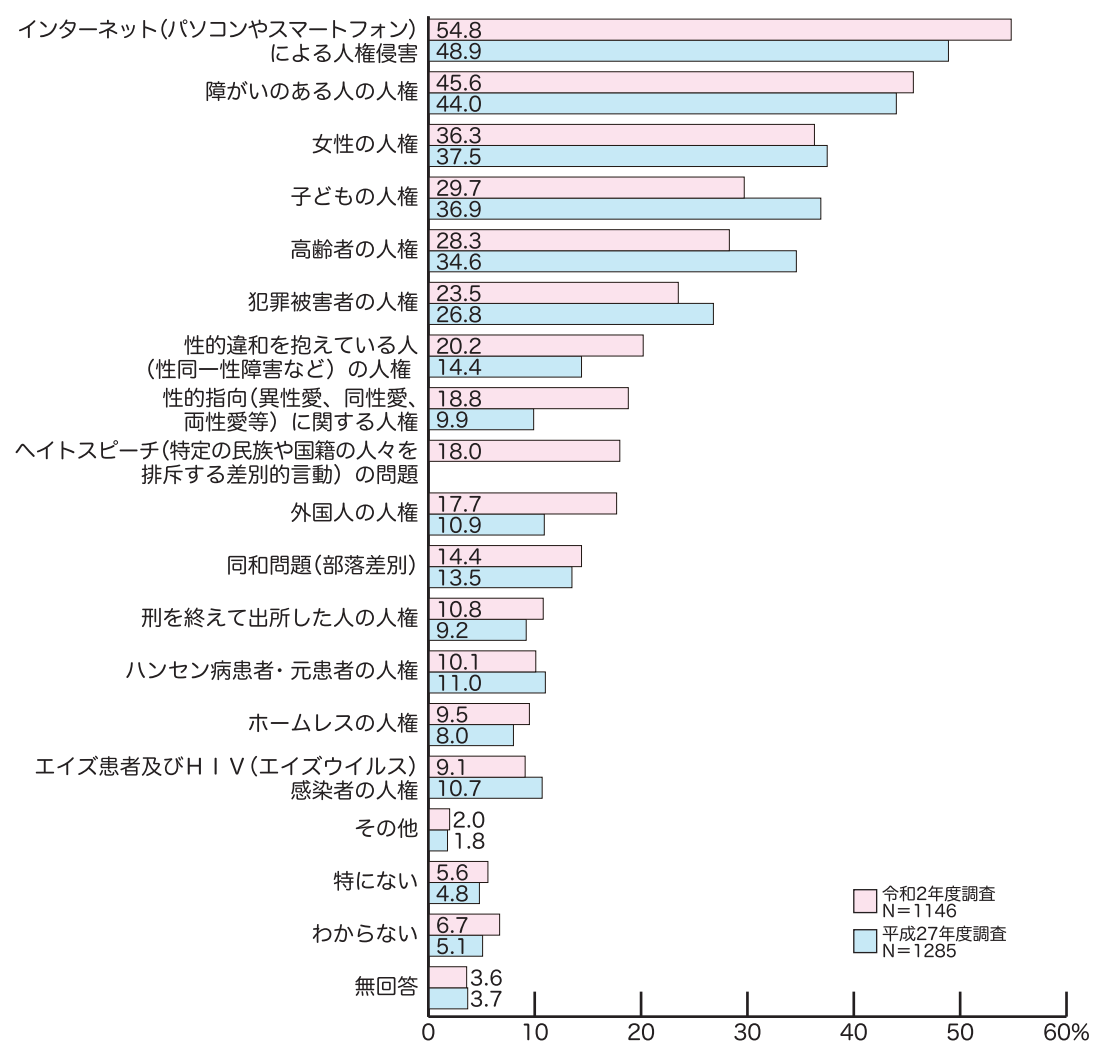
Q 自分の人権を侵害されたと思ったのは、どのような場合でしたか。(複数回答)

「パワー・ハラスメント（権力や地位を利用した嫌がらせ）行為を受けた」の割合が36.4%と最も高く、次いで「地域や職場などにおいて仲間はずれやいじめなど不当な扱いを受けた」の割合が31.5%、「うわさや悪口、落書き、インターネット情報などで名誉・信用を傷つけられたり、侮辱されたりした」の割合が30.2%となっています。



Q 日本の社会における人権にかかわる問題として、重要な問題は、どれだと思いますか。(複数回答)

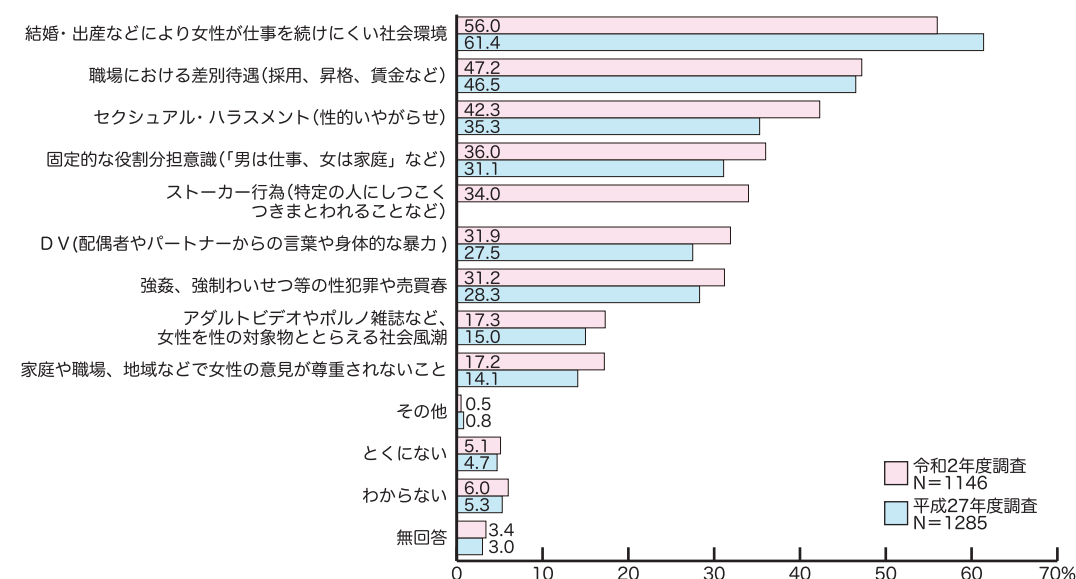
「インターネット(パソコンやスマートフォン)による人権侵害」の割合が54.8%と最も高く、次いで「障がいのある人の人権」の割合が45.6%、「女性の人権」の割合が36.3%となっています。



さまざまな人権について

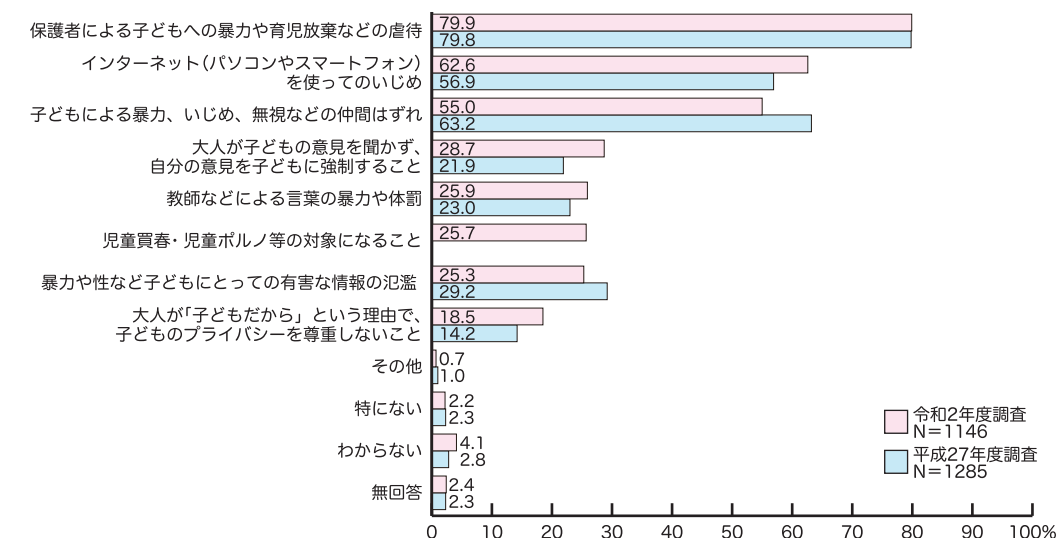
Q 女性に関する人権上の問題として、現在、特に問題となっているのはどのようなことだと思いますか。(複数回答)

「結婚・出産などにより女性が仕事を続けにくい社会環境」の割合が56.0%と最も高く、次いで「職場における差別待遇(採用、昇格、賃金など)」の割合が47.2%、「セクシュアル・ハラスメント(性的いやがらせ)」の割合が42.3%となっています。



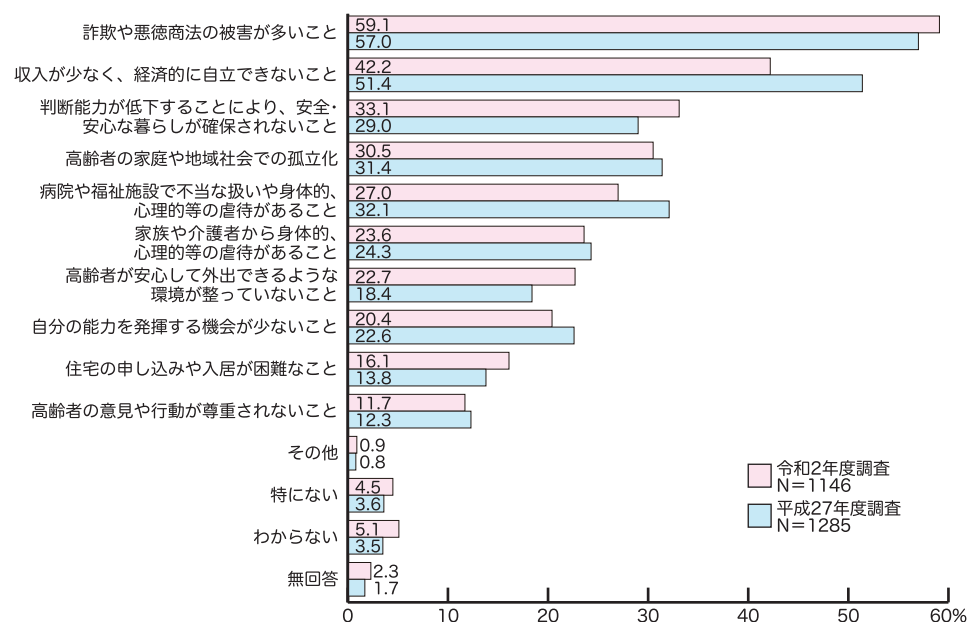
Q 子どもに関する人権上の問題として、現在、特に問題となっているのはどのようなことだと思いますか。(複数回答)

「保護者による子どもへの暴力や育児放棄などの虐待」の割合が79.9%と最も高く、次いで「インターネット(パソコンやスマートフォン)を使ってのいじめ」の割合が62.6%、「子どもによる暴力、いじめ、無視などの仲間はずれ」の割合が55.0%となっています。



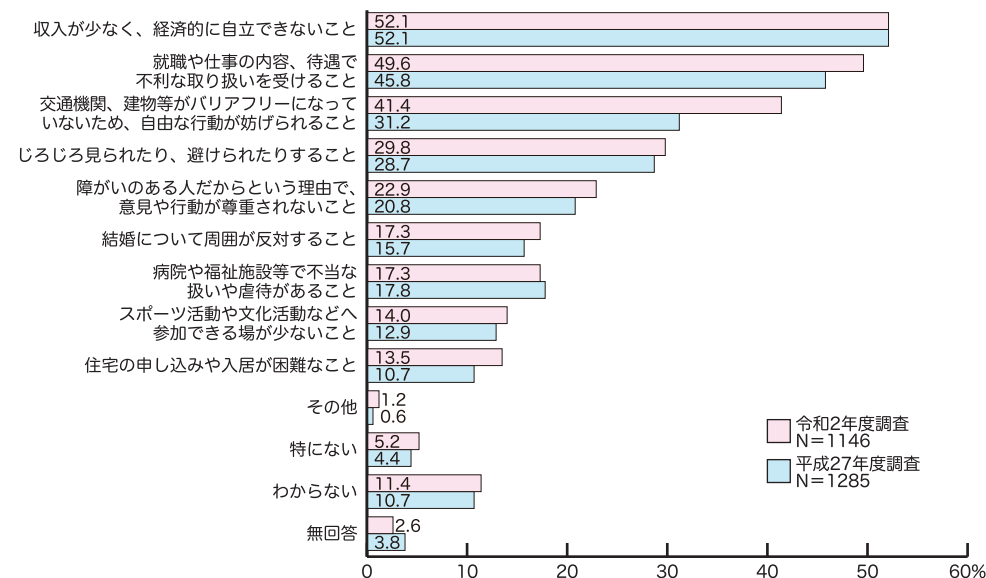
Q 高齢者に関する人権上の問題として、現在、特に問題となっているのはどのようなことだと思いますか。(複数回答)

「詐欺や悪徳商法の被害が多いこと」の割合が 59.1%と最も高く、次いで「収入が少なく、経済的に自立できないこと」の割合が 42.2%、「判断能力が低下することにより、安全・安心な暮らしが確保されないこと」の割合が 33.1%となっています。



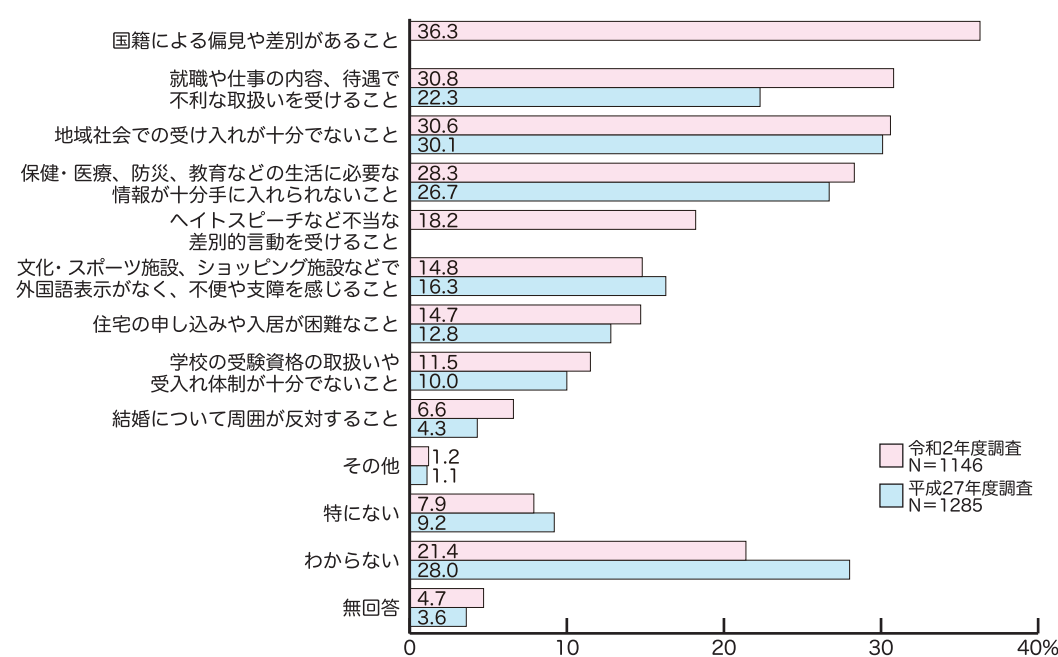
Q 障がいのある人に関する人権上の問題として、現在、特に問題となっているのはどのようなことだと思いますか。(複数回答)

「収入が少なく、経済的に自立できないこと」の割合が 52.1%と最も高く、次いで「就職や仕事の内容、待遇で不利な取り扱いを受けること」の割合が 49.6%、「交通機関、建物等がバリアフリーになっていないため、自由な行動が妨げられること」の割合が 41.4%となっています。



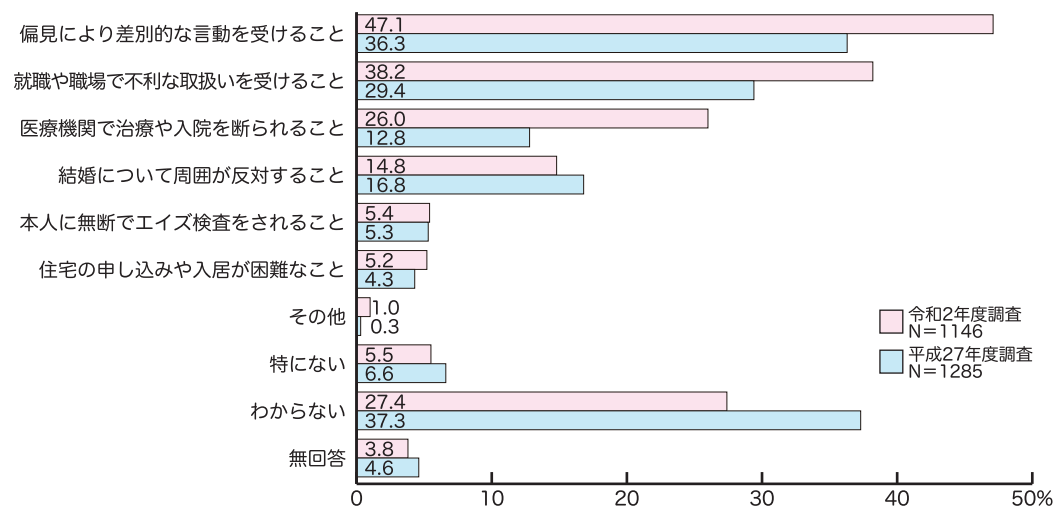
Q 日本に居住している外国人に関する人権上の問題として、現在、特に問題となっているのはどのようなことだと思いますか。(複数回答)

「国籍による偏見や差別があること」の割合が 36.3%と最も高く、次いで「就職や仕事の内容、待遇で不利な取り扱いを受けること」の割合が 30.8%、「地域社会での受け入れが十分でないこと」の割合が 30.6%となっています。



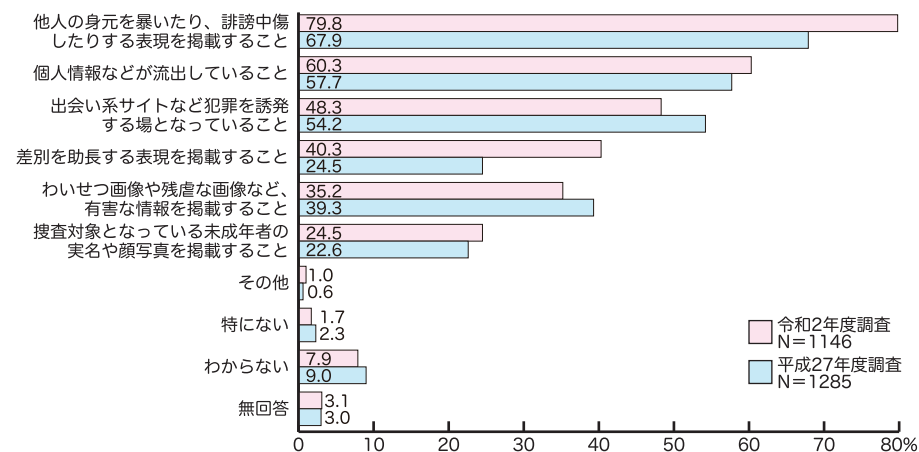
Q エイズ患者・HIV感染者等(新型コロナウイルス感染者を含む。)に関する人権上の問題として、現在、特に問題となっているのはどのようなことだと思いますか。(複数回答)

「偏見により差別的な言動を受けること」の割合が 47.1%と最も高く、次いで「就職や職場で不利な取り扱いを受けること」の割合が 38.2%、「わからない」の割合が 27.4%となっています。



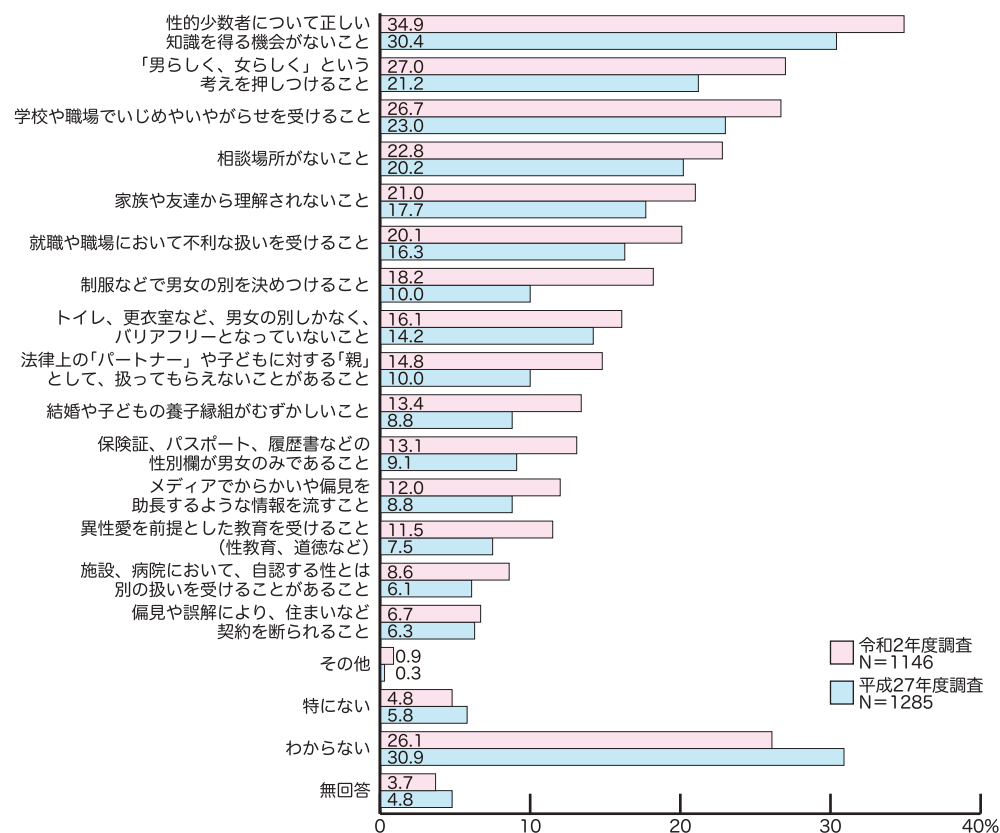
Q インターネットによる人権侵害の問題として、現在、特に問題となっているのはどのようなことだと思いますか。(複数回答)

「他人の身元を暴いたり、誹謗中傷したりする表現を掲載すること」の割合が 79.8%と最も高く、次いで「個人情報などが流出していること」の割合が 60.3%、「出会い系サイトなど犯罪を誘発する場となっていること」の割合が 48.3%となっています。



Q 性的マイノリティの人々に関する人権上の問題として、現在、特に問題となっているのはどのようなことだと思いますか。(複数回答)

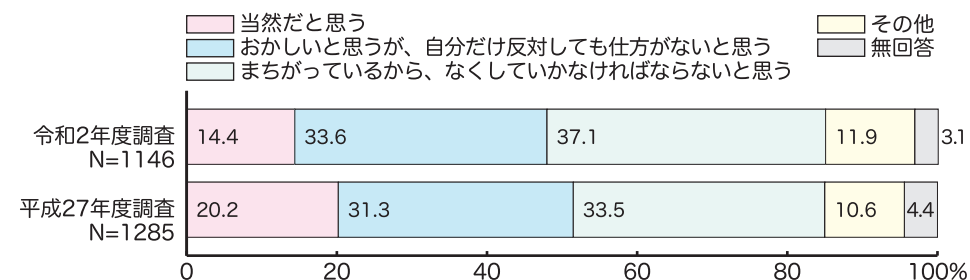
「性的少数者について正しい知識を得る機会がないこと」の割合が 34.9%と最も高く、次いで「男らしく、女らしく」という考えを押しつけること」の割合が 27.0%、「学校や職場でいじめやいやがらせを受けること」の割合が 26.7%となっています。



家柄・血筋を問題にする風習について

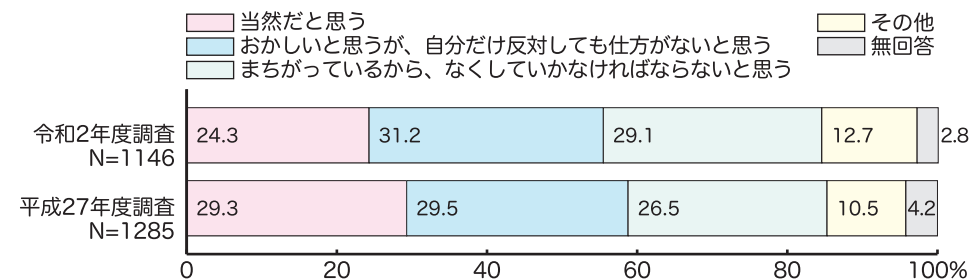
Q 結婚相手を決める時、家柄とか血筋を問題にする風習について、あなたはどのように思いますか。

「まちがっているから、なくしていかなければならないと思う」の割合が 37.1%と最も高く、次いで「おかしいと思うが、自分だけ反対しても仕方がないと思う」の割合が 33.6%、「当然だと思う」の割合が 14.4%となっています。



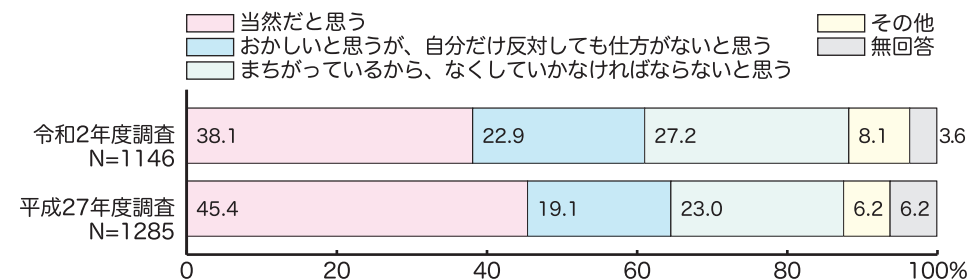
Q 結婚にあたり家柄や家族状況を調べること(聞き合わせ)について、あなたはどのように思いますか。

「おかしいと思うが、自分だけ反対しても仕方がないと思う」の割合が 31.2%と最も高く、次いで「まちがっているから、なくしていかなければならないと思う」の割合が 29.1%、「当然だと思う」の割合が 24.3%となっています。



Q 企業が採用選考のときに身元調査をすることについて、あなたはどのように思いますか。

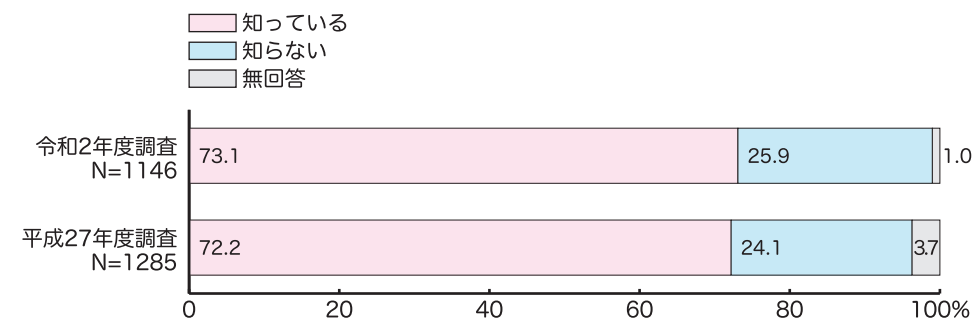
「当然だと思う」の割合が 38.1%と最も高く、次いで「まちがっているから、なくしていかなければならないと思う」の割合が 27.2%、「おかしいと思うが、自分だけ反対しても仕方がないと思う」の割合が 22.9%となっています。



同和問題（部落差別）について

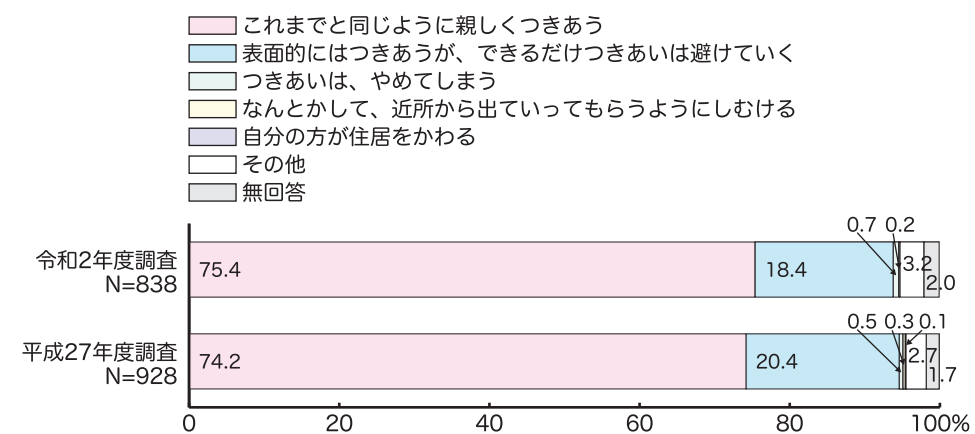
Q あなたは、日本の社会に「同和地区」、「被差別部落」などと呼ばれ、差別を受けてきた地区があること、あるいは「同和問題」、「部落問題」、「部落差別」といわれる問題があることを知っていますか。

「知っている」の割合が73.1%、「知らない」の割合が25.9%となっています。



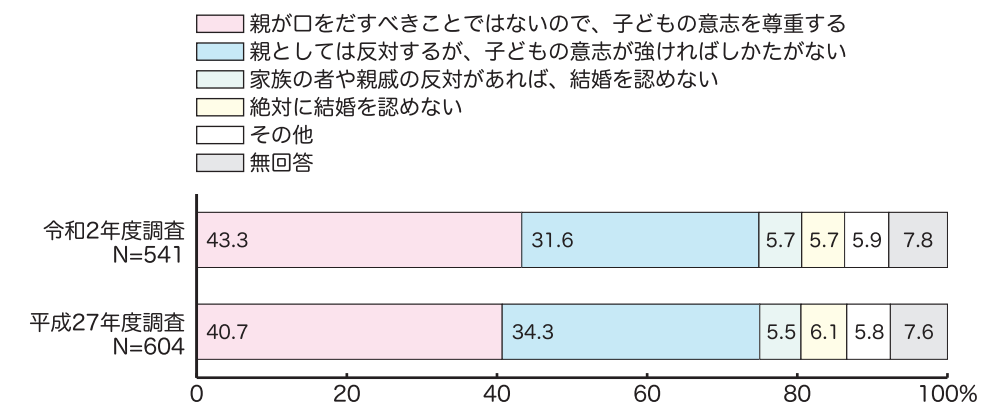
Q 仮に、日ごろ親しくつきあっている隣近所の人や、何かのことで同和地区出身の人であることがわかった場合、あなたはどのようにしますか。

「これまでと同じように親しくつきあう」の割合が75.4%と最も高く、次いで「表面的にはつきあいが、できるだけつきあいは避けていく」の割合が18.4%となっています。



Q あなたのお子さんの結婚しようとする相手が、同和地区の人であるとわかった場合、あなたはどのようにしますか。

「親が口をだすべきことではないので、子どもの意志を尊重する」の割合が43.3%と最も高く、次いで「親としては反対するが、子どもの意志が強ければしかたがない」の割合が31.6%となっています。



Q あなたが同和地区の人と恋愛し、結婚しようとするとき、親や親戚から強い反対を受けたら、あなたはどのようにしますか。

「親の説得に全力を傾けたのちに、自分の意志を貫いて結婚する」の割合が24.9%と最も高く、次いで「自分の意志を貫いて結婚する」の割合が10.3%、「家族の者や親戚の反対があれば、結婚しない」の割合が7.6%となっています。

